平成 27 年度千葉県律保健医療大学学長裁量研究報告
「看護職の就業継続（セカンドキャリア）に関する調査」

Ⅰ．調査協力施設の概要

１）全体の回収率

666 施設に調査依頼を行い、155 施設から回答があり（回収率＝23.3%)、有効回答は 153 でした。

２）施設ごとの回収率

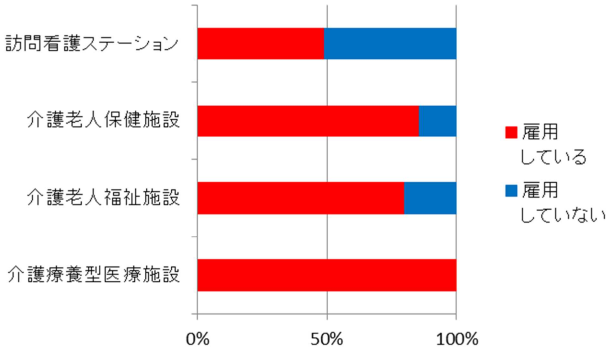
施設ごとの回収率は以下の通りです。

施設	回収数	回収率
訪問看護ステーション	48	26.4%
介護老人保健施設	36	23.8%
介護老人福祉施設	61	19.9%
介護療養型医療施設	5	19.2%

Ⅱ．セカンドキャリアの雇用の現状と意向

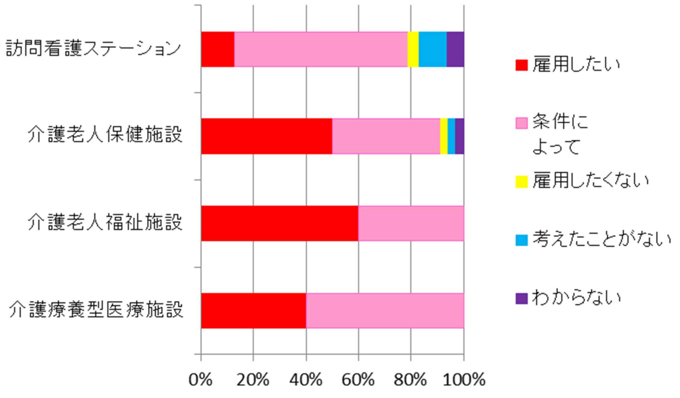
１）セカンドキャリア看護職雇用の現状（n=147）

介護老人保健施設、介護老人福祉施設、介護療養型医療施設のほとんどの施設で現在セカンドキャリア看護職を雇用していることがわかりました。



２）セカンドキャリア看護職雇用の意向（n=146）

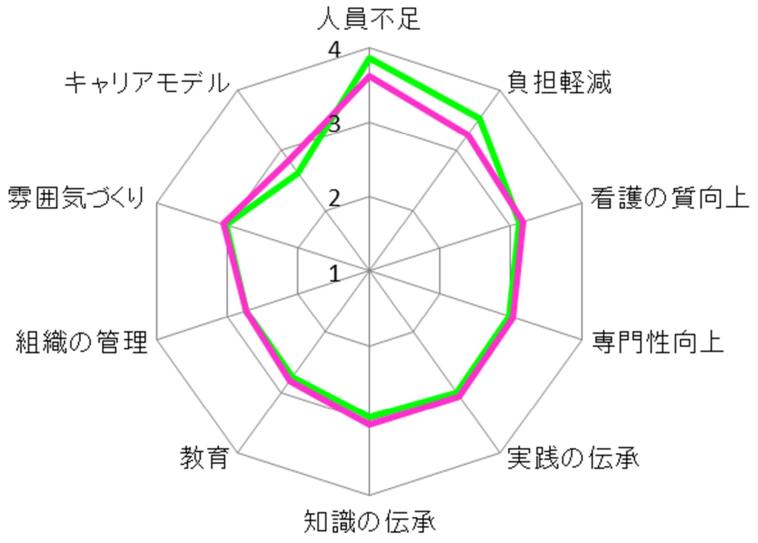
ほとんどの施設でセカンドキャリア看護職を雇用したい、条件によっては雇用したいという意向があることがわかりました。



Ⅲ．セカンドキャリア看護職の業務と効果

１）セカンドキャリア看護職を雇用したことによる効果と今後の雇用による期待

セカンドキャリア看護職を雇用したことによる効果を緑色、今後雇用した場合における期待をピンク色で示しています。人員不足、負担軽減、看護の質の向上に効果や期待が高いことがわかりました。



※得点の意味

４：かなり役立っている／期待している

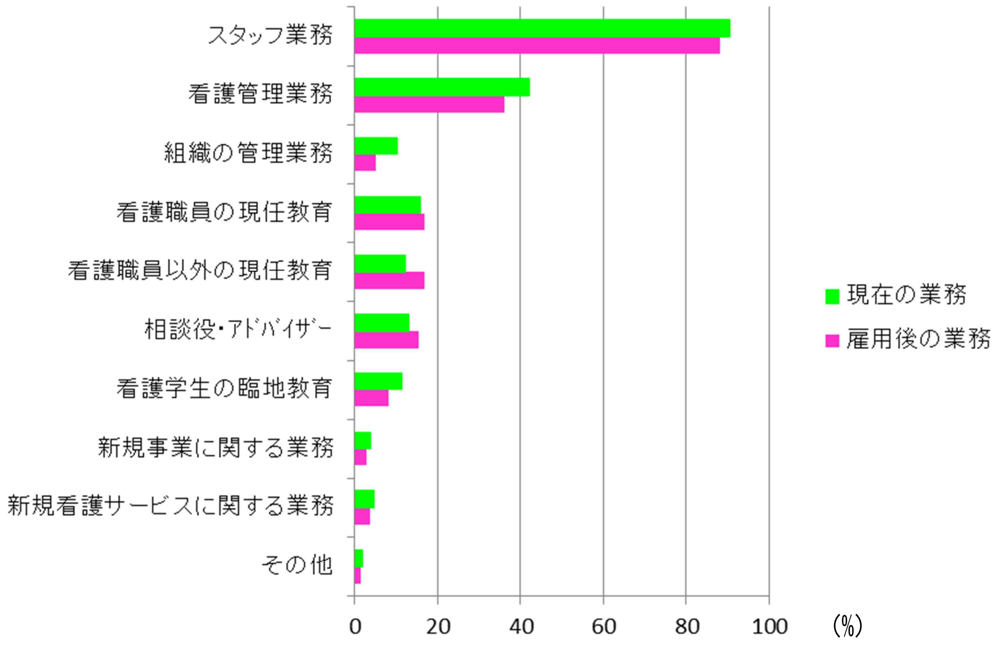
３：やや役立っている／期待している

２：あまり役立っていない／期待していない

１：全く役立っていない／期待していない

２）セカンドキャリアの現在の主な業務内容と雇用後の主な業務内容

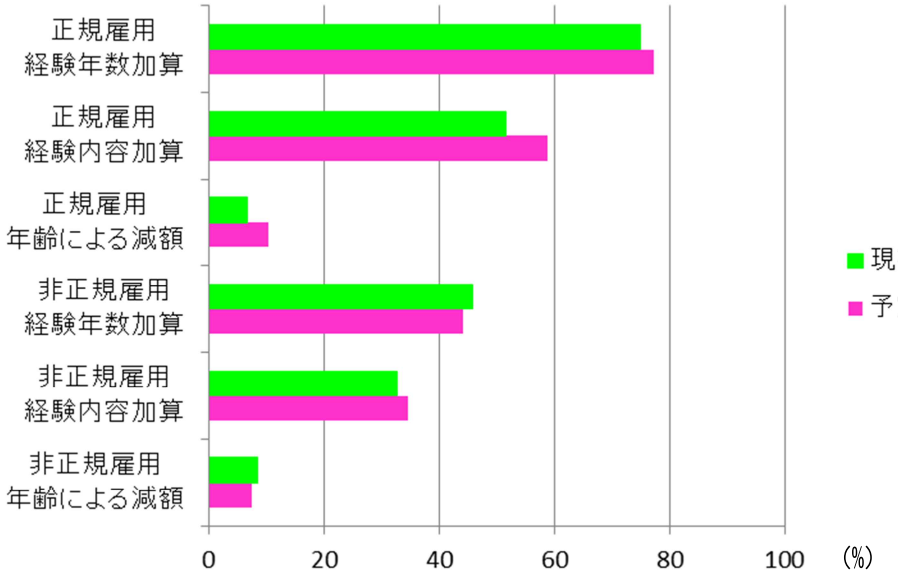
セカンドキャリア看護職の現在の業務内容を緑色、今後雇用した後の業務内容をピンク色で示しています。多くの施設で、現在スタッフ業務や看護管理業務を担い、雇用後もそれらの業務を担うことに多く期待されていることがわかりました。



Ⅳ. セカンドキャリア看護職の雇用条件について

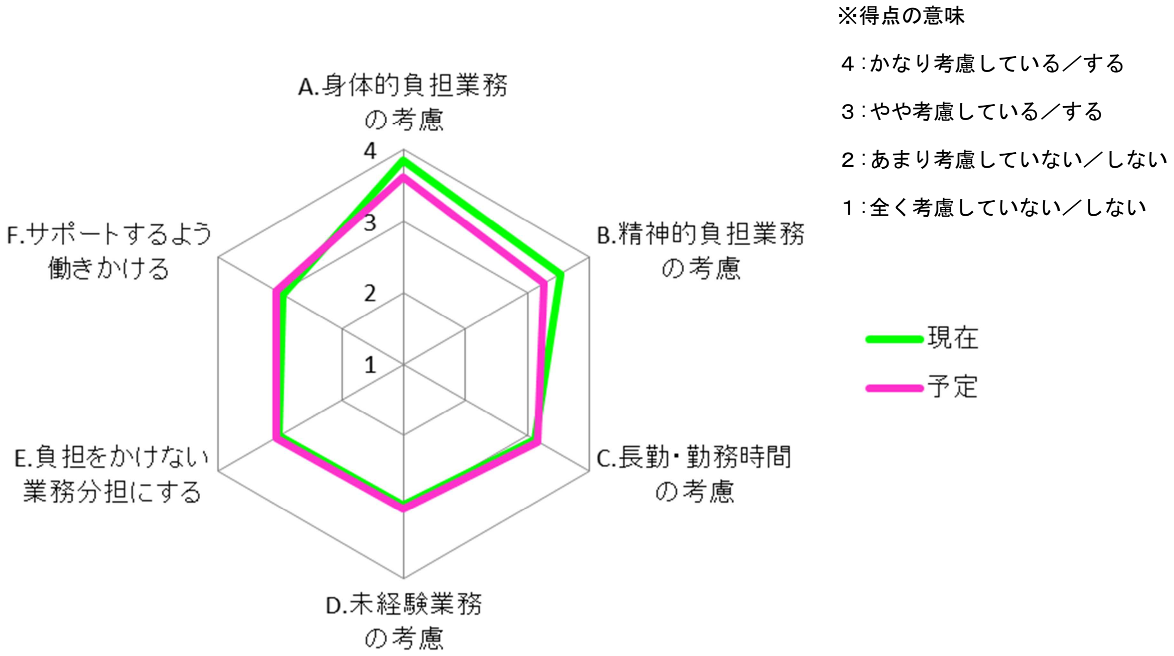
1）セカンドキャリア看護職の雇用における賃金

特に正規雇用において、多くの施設で経験年数や経験内容によって賃金を加算している、あるいは加算する意向にあることがわかりました。



2）セカンドキャリア看護職を雇用する上で考慮すること

多くの施設で、特に身体的負担のある業務や精神的負担のある業務について考慮していることが分かりました。



※　A～D：セカンドキャリア看護職への働きかけ

※　E・F：他の職員への働きかけ

今回の調査で、セカンドキャリア看護職の雇用のニーズが高く、雇用の実態や今後の雇用に向けての施設の現状が見えてきました。今後さらに詳細を分析し、どのような施設や場で雇用ニーズがあり、どのような整備が必要なのかを検討していきたいと考えております。ご質問やご意見は下記までよろしくお願いいたします。調査にご協力いただき、ありがとうございました。

研究メンバー　川城由紀子　石井邦子　鳥田美紀代
大滝千智　川村紀子　竹内久美子
（千葉県立保健医療大学）
〒261-0014 千葉市美浜区若葉 2-10-1　cpuhs_mm-adm@umin.ac.jp